

放射線・防災教育の充実をめざして

学校教育課通信

平成30年1月17日(水) 第138号
編集・発行: 県南教育事務所 福地裕之

平成29年度地域と共に創る放射線・防災教育地区別研究協議会から

平成29年11月28日(火)に、白河合同庁舎大会議室において、県南域内の「平成29年度地域と共に創る放射線・防災教育地区別研究協議会」が行われました。

本県の放射線・防災教育は、昨年度まではそれぞれ「放射線教育推進支援事業」「生き抜く力」を育む防災教育推進事業の二つの事業として進められてきました。今年度からは相互の関連をより一層図るために「地域と共に創る放射線・防災教育推進事業」として統合され、ふくしまの「過去」に学び、「現在」を見つめ、地域との積極的な連携を通して「未来」を切り拓こうとする放射線・防災教育の展開を目指しています。新しい事業を推進するにあたって重視されているのが、「知識定着型」から「問題解決型」の学びに改善していくことと地域や関係機関との連携を通して広く学びを発信することです。

本研究協議会では、防災教育においては「体験的かつ問題解決型の授業展開」を、放射線教育においては「地域や関係機関との連携を図った実践」に重点を置いて研修を行いました。

【防災教育の研修から】

講義「福島県の防災教育の方向性」

福島県教育庁義務教育課 君 佳子指導主事

研修はじめのこの講義では、今後防災教育を進めるにあたっての方向性や役割をお話をいただきました。

- ① 防災（災害安全）は、生活安全・交通安全も含む安全・危機管理の基本となる。
- ② 先行き不透明な時代や社会において、子どもたちの生き抜く力を培う。
- ③ 環境（自然・社会）・科学技術の二面性を知り、畏敬・感謝の念を培う。
- ④ 社会に貢献する意欲を持ち、地域から世界に目を向けることができる人材を育成する。

これらの防災教育を通して育てる「思考力、判断力、表現力」は、人として生きていく上で、とても重要な力であります。

赤十字防災教育演習プログラム「ストーリーを完成させよう」

保原高等学校 菅野勇一郎教諭 青少年赤十字賛助奉仕団 山口彌代様 大山 郁様



「ストーリーを完成させよう」の演習では、用意された4枚のイラストを並べ替えながらストーリーを作っていました。防災に関するグループワークを通して、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育てることをねらいとしています。災害時に命を守っていくためにはコミュニケーション能力が重要です。グループワークを通して、児童生徒に身に付けさせてていきたい能力です。

【放射線教育の研修から】

講義「放射線教育の現状と今後の方向性」

福島県教育庁義務教育課 國井 博指導主事

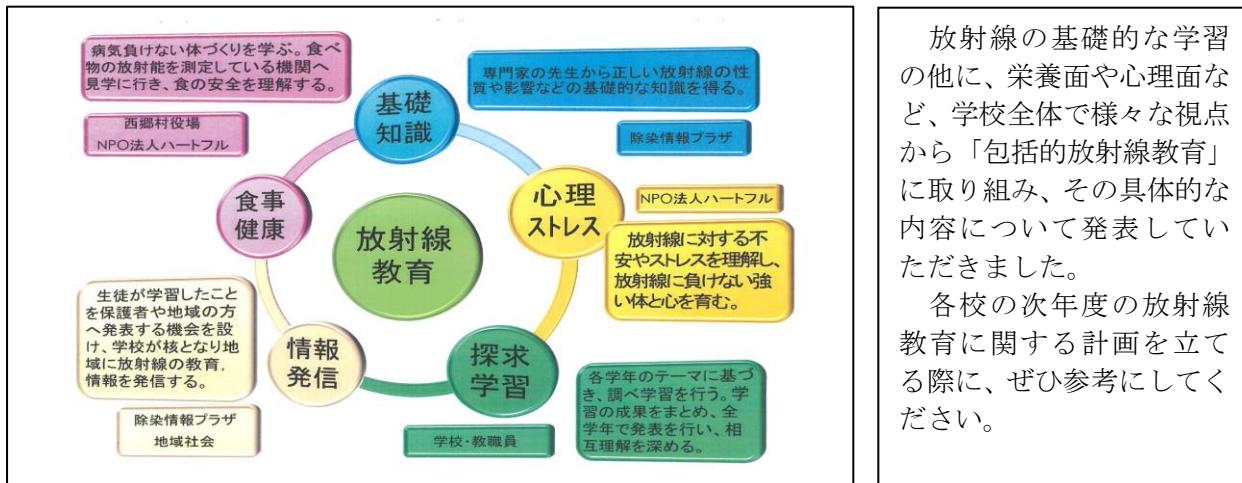
最初に、放射線教育を通して児童生徒に理解を深めさせたい点として、次の4点が挙げられました。

- ① 自然放射線の存在を理解させる。
- ② 放射線の利活用について理解させる。
- ③ 一度に多量の放射線を被ばくすると危険であることを理解させる。
- ④ 原発事故等の際の身を守る方法について理解させる。

これらの理解をさらに深め、「ふくしまの災害について学び、地域や県の取組を見つめ、これから地域・社会・自分を思い描いて切り拓いていく」児童生徒を育てていかなければならない。そのために、問題解決的な学習を行うこと、地域や関係機関との連携の大切にすることが重要です。

実践校発表「放射線教育の実践」

西郷村立西郷第一中学校 関本慶太教諭



放射線の基礎的な学習の他に、栄養面や心理面など、学校全体で様々な視点から「包括的放射線教育」に取り組み、その具体的な内容について発表していただきました。

各校の次年度の放射線教育に関する計画を立てる際に、ぜひ参考にしてください。

協議・演習「自校における放射線教育」の感想から

- こんなにすばらしい資料が各校に配布されていたのだから活用しなければ。そして、学校できちんと伝達しなければと感じました。
- 放射線教育に対する必要性は正直言って、年々薄れてきた自分がいましたが、今回の研修を受けて、大切だと改めて思いました。子ども達に将来必要になることを信じ、しっかり実践していきたいと思います。「福島出身です。」と堂々と言える子ども達を育てていきたいと思いました。



講演「風評被害を乗り越えて福島の子どもたちが育っていくために」滋賀大学 藤岡達也教授



藤岡先生からは、「災害が発生すると、社会の理解不足から被害に遭った人々に原因が求められ、いわれなき差別が繰り返されてしまうことがある。一人一人が科学的なデータを基に周囲に発信できるようにすることが大切である。」とのお話をありました。

〈今後の取組について〉

福島県は、北海道、岩手県に次いで3番目の広さを持っています。近年、福島県は自然災害を含めた様々な災害が起こっている現状です。私たちは子ども達の命を守るために、それらの災害に備えをし、更に自然への脅威と自然から受ける恩恵の二面性を子ども達に伝えていかなければなりません。事務所として、特にお願いしたい点について列記いたします。

- **体験的な授業や問題解決的な授業を行っていきましょう。**
 - ・ 放射線・防災教育は、学校、学年全体で組織的に取り組むために、年間計画に位置づけることが大切です。授業の実施や教材の作成は、校内で協力して行っていきましょう。
 - ・ 今回の研修の中で使用した「ふくしま 放射線教育・防災教育指導資料」(福島県教育委員会)「まもるいのち ひろめるぼうさい」(日本赤十字社)等の資料の中に、学習指導案が載っています。その指導案を使って授業を行うのも一案です。まずは、一步踏み出すことです。
- **年度末における「ふくしま 放射線教育・防災教育指導資料」等を確実に引き継ぎましょう。**
 - ・ 「ふくしま 放射線教育・防災教育指導資料」は前年に学級に一冊ずつ配布されています。確実に引き継ぎされるように学校の実態に合わせて、先生方が活用しやすいような冊子の保管をお願いします。
例1) 年度末に回収して、年度始めに再配布する。
例2) 年度末に回収して、職員図書に配置し、いつでも使えるようにする。など